ICA基底を用いた符号化方式における性能改善のための最適基底選出

Improvement of Coding Performance by Optimal Basis Selection

in Image Compression Method using ICA Basis

|  |  |
| --- | --- |
| 中田雄大† | 亀田昌志† |
| Yudai NAKADA† | Masashi KAMEDA† |

|  |
| --- |
| 岩手県立大学大学院　ソフトウェア情報学研究科† |
| Graduate School of Software and Information Science, Iwate Prefectural University† |

**Abstract**: The compression method using ICA basis requires entropy to store the information of ICA basis which are indigenous to a given input performance. In our proposed method, the optimal ICA basis in the obtained ICA\_Block are determined by comparing the contribution of each ICA base to the input image in consideration to ICA basis. It is seen in our experimental result that the coding performance of the proposed method is reduced the coding rate to the conventional method at the same PSNR.

1. **はじめに**

離散コサイン変換(DCT)は，人の視覚特性に基づいた量子化法により情報量の削減を実現しているが，符号化レートが低くなるとエッジ周辺に視覚的に妨害となる歪みが発生する．一方，独立成分分析(ICA)[1]では，入力画像に固有な基底群を用いることで，画像の非定常部分である局所的な特徴を少数の基底のみで保存可能である．DCTとICAを併用した符号化方式[2]においては，ICA基底自身の情報を記憶するための符号量(エントロピー)を別に必要とすることから，基底の符号量を抑えるために符号化で使用するICA基底数の絞り込みを行う必要がある．

文献[2]では，入力画像に対してDCTが優位な小領域DCT\_Blockと，ICAが優位な小領域ICA\_Blockに分割することで符号化を行っている．ICA\_Blockを決定するためには，入力画像を符号化するときの各ICA基底の寄与を評価し，最適な基底とそれらを使用する小領域を明らかにする必要がある．しかし，文献[2]では，小領域毎に最適となるICA基底のみを用いて評価しているため，それ以外の基底が他の領域で持つ有効性を正しく評価できていなかった．そこで，本稿では，ICA\_Blockの候補の符号化に対する各ICA基底の寄与に基づいて，基底の符号量との比較による最適な基底の組み合わせとICA\_Blockを決定する手法を提案する．

1. **ICA\_Blockの候補**

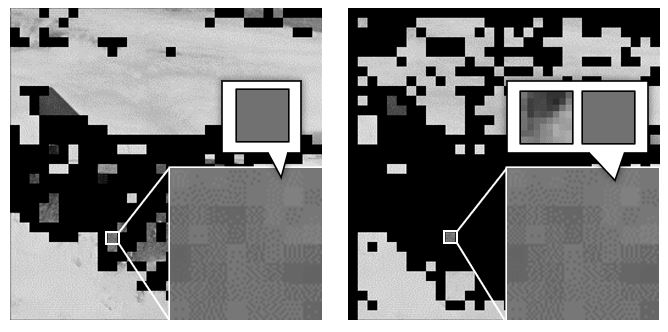
　符号化に最適な基底は各小領域で異なっているが，最適でなくとも符号化にとって有効な基底は存在する．そのため，各小領域の符号化に対する全ICA基底の組み合わせに対してDCT単独からの画質と符号量の改善量を画像全体に対して求めることで，各基底の寄与を評価する．本節では，各小領域の符号化に対してDCT単独と比較したときのICA基底の画質と符号量の改善量を式(1)と式(2)から求める．

ここで，はDCT単独で，はICA基底を個使用して小領域を再構成したときの原画像との平均二乗誤差(MSE)であり，はDCT単独で，はICA基底を個使用して小領域を再構成したときの結合係数の平均情報量を示している．

8×8画素の小領域を再構成した場合，式(1)と式(2)が正となる，すなわちDCT単独よりも画質を高くかつ，符号量を削減できる小領域を，使用される基底のICA\_Blockとし，入力画像に対するICA\_Blockの候補とする．また，文献[2]で低符号化レートにおいてICA基底を2つ程度使用できることが明らかになっているため，本手法では，基底を3つまで使用するものとして検討した．

1. **最適基底とICA\_Blockの決定**

前節で求めたすべてのICA\_Blockの候補をICA\_Blockとして符号化する場合，各小領域で使用されるICA基底が異なるため，画像全体で使用する基底の種類が増加する．そのため，基底の情報を記憶するための符号量もまた増加するため，DCT単独のものよりも符号化性能が劣化してしまう．そのため，本節では，画像全体の符号化に対する各ICA基底の寄与を評価することで，使用する基底の種類を絞り込み，基底の符号量との比較により最適な基底とICA\_Blockを決定する．



(a) 0.21[bit/pel] (b) 0.51[bit/pel]

Figure 1：ICA\_Block and Optimal ICA basis Selection

Figure 2：Comparition of coding performance

ICA基底の組み合わせを用いて小領域を再構成する場合に，式(1)と式(2)から求められる改善量の合計である，入力画像に対する各の画質改善量と削減符号量を

で求める．

次に，式(5)を満たし，が最大となるを最適基底として選出し，を使用するICA\_Blockを入力画像に対するICA\_Blockとして決定する．

ここでは，使用するの基底情報を記憶するための符号量である．ICA基底を用いる符号化においては，ICA\_Blockの結合係数から求められる符号量に，使用する基底を表すための符号量が加わるため，が少ない基底群を使用した場合，DCT単独のものよりも符号化性能が劣化する．そこで式(5)により，を使用して入力画像を符号化する場合に求められるとを評価することで，基底を表す符号量を加えた場合でもDCT単独の符号量よりも改善する基底の組み合わせにおいて，画像全体で評価したときに，画質が最大となるものを求める．

1. **実験結果**

　256×256画素の画像Airplaneに対して提案手法を適用させたときの0.21[bit/pel]と0.51[bit/pel]におけるICA\_BlockとDCT\_BlockをFig.1に示す．ここでFig.1では，DCT\_Blockを黒で，ICA\_Blockを原画像で表示している．また，比較のために抜き出したICA\_BlockとそのICA\_Blockで使用されるICA基底の組み合わせの例を併せて表示している．Fig.1より符号化レートによってICA\_Blockとなる領域と各ICA\_Blockで使用されるICA基底の組み合わせは異なることが分かる．次に，画像Airplaneに対する符号化特性をFig.2に示す．Fig.2では，DCT単独，文献[2]，提案手法の結果を比較している．このとき，文献[2]と提案手法は基底情報を表す符号量を加えたものとなっている．Fig.2より，提案手法は文献[2]と同等以上の画質を保ちながら，符号量が削減されており，すべての符号化レートにおいて符号化性能が改善されていることが分かる．

1. **まとめ**

本稿では，DCTとICAの基底を併用した符号化方式において，性能改善に寄与する最適なICA基底の組み合わせを選出する方法を提案した．ICA\_Blockの候補を用いて，画像全体の符号化に対するICA基底の組み合わせの寄与を評価することで，それらが持つ有効性を正しく評価でき，符号化性能を向上させることができた．提案手法では，符号化レートによってICA\_Blockとなる領域と各ICA\_Blockで使用されるICA基底の組み合わせが異なるため，符号化レートごとに処理を分けて適用させている．この処理コストを削減することが今後の課題となる．

**参考文献**

1. 陳延偉，独立成分分析(ICA)のパターン認識・画像処理への応用とMATLABシミュレーション，トリケップス，東京，(2007)
2. 富樫篤士，亀田昌志，“独立成分分析の基底を用いた静止画像符号化における画質改善量の比較に基づく重要なICA基底の選出，”信学技報，vol.118，no.501，pp.153­—158，(2019)．

*岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科*

*〒020-0693 岩手県滝沢市巣子152-52*

*Phone: 019-694-2522, Fax: 019‒694‒2522*

*E-mail: g231t027@s.iwate-pu.ac.jp*